

<今月の1枚> 国際交流ふれあいin砂川

座右の銘

「座右の銘」を辞書で引けば、「常に心にとめて戒めとする言葉」とあります。全ての人が座右の銘を持っていないにしても、高校入試や就職試験の面接等で「座右の銘」や「モットー」を聞かれることがあります。私は、気になる人物の座右の銘や大切にしている言葉に興味を持ち、一冊のノートにまとめています。今回は、私がこれまでに出会い大切にしている「言葉」を紹介したいと思います。

「心は誰にも見えないけれど 心遣いは見える」

思いは見えないけれど 思いやりは誰にでも見える」

この言葉は、砂中校長の時に、校内に掲示したものです。多様性が叫ばれる時代、相手を理解することが求められる社会の中で、心配りや思いやりの「こころを育みたい」との思いからの言葉です。これは、東日本大震災が起こった後に、TVからACジャパンのCMとして流れてきたのが最初で、調べてみると、詩人・宮澤章二の「行為の意味」から抜粋要約したフレーズだということがわかりました。また、誰もが口ずさむ「ジングルベル」は彼の作詞であることに驚いた記憶があります。

「前へ 一生懸命」 「人生意気に感ず」

この言葉は、教員時代に卒業アルバムに書いた言葉です。卒業式が近づくと、卒業生がアルバムとペンを持って「一言」を書いて欲しいと訪れます。35年前、稚内南中学校で担任をしていた時、卒業学年が6学級あり数が多いことから、筆ペンで一気にかける言葉をつくり書いたのが「前へ 一生懸命」でした。「これからの人生、小さな一歩でもいいから前へ進む努力を続けて欲しい」という、思いを込めた言葉です。

そして、管理職になってからは、変化の激しい時代を生き抜いていくためには、ポリシー（信念）、パッション（情熱）をしっかりと持って、積極的な心でイノベーション（変革）を起こし人生を切り拓いて欲しいというメッセージを込め「人生意気に感ず」と記してきました。当時の子どもたちに伝わっていれば…。

「家庭で育み 学校で学び 地域で伸ばす」

R3年度から砂川では、小中学校7校すべてにCS（コミュニティ・スクール）を導入し、家庭・学校・地域の人たちによる「学校運営協議会」が設置されました。三者がそれぞれの役割に責任を持ち、協働して砂川の子どもたちをどう伸ばそうかという議論が行われ取り組みが始まっています。まさに今求められている言葉です。

「1日を楽しみたければ 花を活けよ 1年を楽しみたければ 花を植えよ」

10年を楽しみたければ 木を育てよ 100年を楽しみたければ 人を育てよ」

これは昔、社会教育の仕事をしていたころ、ある町の「周年事業」での挨拶の一節です。非常に印象的で「生涯学習」という理念に基づいた今も心に残る言葉です。人生100年時代を迎え、「健康寿命」こそが重要だと言われています。健康で長生きするためには、バランスの取れた食事、適度な運動、そして頭を働かせることが大切です。「知りたい」「学びたい」「学んだことを活かしたい」という「学びの好奇心」をいつまでも大切に「人生 日々勉強、毎日を元気に、そして楽しく過ごせたらと思います。」

（生涯学習推進アドバイザー 奈良 浩幸）